

旧村川別荘だより



平成19年4月20日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL：04-7185-1583（直通）
E-mail:bunka@city.abiko.chiba.jp

「村川堅固・堅太郎を語る」開催されました！

平成19年4月15日（日）に、かねてから皆様にもご案内をしていました、「村川堅固・堅太郎を語る」の講演会が開催されました。当日はお天気にも恵まれ、会場にもたくさんのお客様をお迎えすることができました。

伊藤貞夫先生、村川夏子先生には、お昼前に我孫子においでいただき、旧村川別荘へご案内しました。旧村川別荘では市民ガイドさん（実際の市民ガイドさんのほうが喜ばれることと思ひまして、急遽岡田さんをお願いしました！）に出迎えてもらい、伊藤先生と村川夏子先生にはガイドを楽しんでいただきました。岡田さん、ありがとうございます（^^）。お2人とも非常に熱心に聞き入っていました。

講演会では、伊藤先生より近代日本における西洋史学の始祖は村川堅太郎であること、生涯を通じて西洋史を追求し続けたことが語られました。村川夏子先生からは祖父堅固・父堅太郎の姿がエピソードと画像で生き生きと語られ、親しみがもてたという声を多数いただきました。またこうした講演会を企画していきたいと思っています。



「美しい日本の歴史風土100選」の準に！

財団法人古都保存財団などの主催による（後援は国土交通省、文化庁など多数）が、古都保存法施行40周年記念事業として、「美しい日本の風

土100選」として募集をし、その選考がこのたび行われました。歴史的な建物や庭園、古い街並み、街道、掘割や水路、遺跡や城址、神社仏閣、田畑や棚田、溜池や湧水・・・わが国に残る歴史的・文化的遺産は、山丘や樹林地と一体となって日本らしい風情を、歴史的な風土を選び、次世代へ守り伝えていくまちづくりへの一助としていくものです。



我孫子市では、二つの応募をしました。ひとつは、手賀沼と沼を望む古墳や神社仏閣、文人たちの旧居としての風景、もう一つは古利根沼周辺の風景です。その結果、手賀沼を望む古墳や文人の旧居ということで、準100選に入りました。応募場所には、京都や奈良をはじめとする世界遺産級の多くの名所が含まれていたことを踏まえ、準100選に選ばれたことは非常に善戦したとあってよく、我孫子のよさがまた伝えられる一つの機会にもなったかと思い、事務局でも喜んでいきます。

4月の月例会が開催されました。

星野市長出席のもとで、4月1日（日）に4月の月例会が開催されました。シフトの確認とDCで文化課が実施している白樺派を巡るとい散策のショートバージョン、そして

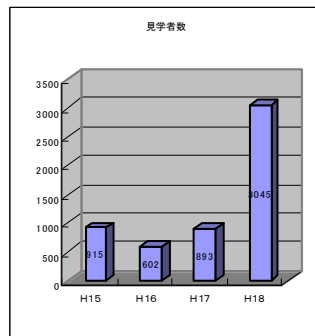
意見交換がなされました。以下に報告します。

●星野市長からひとこと

昨年度からはじまったこのガイドについて、みなさんのご協力への感謝の気持ちと、ガイドが始まってからダントツに来訪者が増加していること、これからこのような史跡の活用というのはますます発展していく注目の分野であること、これからはぜひともに協力し合って進めていきませんかということなどについて話されました。

●昨年度実施状況

4月1日の月例会ではまだ3月分の統計ができていなかったのですが、この紙面上ではお知らせできます。下のグラフをご覧ください。来訪者数はうなぎのぼりを通り越したような状況です(^^)。最終的に3月の来訪者数も含めて、18年度は3045名のお客様をお迎えしました！！特に、例年、来訪者はほとんどなくなる1～3月の寒い時期にも、マスコミ効果もあってか減少することなく平日にもお客様がみえてくださったことなどが、注目すべき点です。前年や前々年は600～900人ですから3倍以上です。現地ガイドがいるということは、やはり大きな魅力です。



●市長へのガイド

青木さんをお願いをして、星野市長に対し旧村川別荘のガイドをしていただきました。市長も歴史的、文化的遺産の活用については非常に関心が高く、熱心に聞き入っている様子でした。青木さん、名ガイドをありがとうございました。

●5月のシフトについて

→確認されました。

●周辺の史跡散策を行いました。

そのほか活発な意見交換がされました。

・この旧村川別荘についての建築物としての評価がまだ固まっていないと思います。この時代の建築物の専門家にみてもらい、評価を確定させることが必要で、その結果、またより効果的なPRやガイド、より合致したこの施設の活用の方向も生み出せるのではないかと思います。少し話がはずれますが、駅前の小池薬局が解体さ

れるように聞いています。こうしたものが失われるのは本当に残念です。保存してほしいと言わないまでも、記録として建築物の評価を行い、残していくことができたらと思います。

- ・前回、担当だった日に、新館を使われたグループの方がお昼を食べることを主目的にここを借りて、お茶を飲んだり、電気ポットも勝手にコンセントに繋いで使ったり占有しているように思ったのですが、いかがなものでしょうか。
 - ・見学者の方に書いていただく芳名帳は、電話番号ではなくて市内か市外かがわかるようなものにしたいほうがいいと思います。電話番号では抵抗があるひともしのくくらいは記入していただける方も増えるだろうし、今後のPRや取り組みの材料にもなります。
 - ・ホールのソファは使っていないのだから、どこかへ移動させてここを広くできたほうが良いのでは？
- 4月中旬に奥の部屋の机と椅子の入れ替えをする予定で、それにあわせてこのホールの配置換えもしたいと思います。スペースを有効利用できるように、ソファも何か活かす形をできれば考えたいと思います。
- ・新館の奥の部屋の窓際の電灯が点かないようなのですが、もともとだったのでしょうか？それとも切れてしまっているだけでしょうか？→点くようにしました。
 - ・山口さんより花瓶をご提供いただきました。ありがとうございます。また、お花もいつも中野さんがきれいに活かしてくださって、部屋を明るくしてくれています。

次回は・・・

平成 19年5月1日 (火) 午前 9 時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います(^^)。

☆ 書道連盟の山田海峰先生が、この床の間に合うような掛け軸を書いてくださいました。「一望千里湖畔絶景」と揮毫されています。



旧村川別荘だより



平成 19 年 5 月 22 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL：04-7185-1583（直通）
E-mail:bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘の春！

薫風の吹きぬけるさわやかな旧村川別荘です。半分、苦行（?!）のようでもあった冬の別荘番とは違って、今時分の別荘は、ほんとうに気持ちがいいですね（^^）。

4 月 14 日には、ディスティネーションキャンペーンによる駅からハイキング（略して駅ハイ、なんだかおいしそう・・・）では 2000 人以上！の方々が市内を練り歩き、旧村川別荘でもてんでこまいでした。ちょうど運悪く？というか運よく？お当番にあたってしまった瀬戸さん、山田さん、岡田さん、菊池玲子さん、本当にお疲れ様でした。

そして、4 月 29 日午前には文化課主催で行った白樺派の足跡を巡る散策で、やはり 100 名近くをご案内しました。

また、同じ日には北総ウォーキングクラブのような組織でやはりイベントを実施したようで、午後も引き続いて多くのお客様をお迎えしました。

ガイドさんがいるということ、別荘に関する PR などが効果を上げてきており、季節柄もあいまって散策の人が多く訪れ、なんだか今年度は 4 月だけでも昨年度 1 年間分の来荘者数を上回る勢いでした。



それから、忘れてならないのは別荘で収穫され

る春の味覚。たけのことふきのとうがとれました。桜井さんや扇さん、今木さんといった管理の方々がベテランの目で見つけてくださり、その日、その瞬間とれたての春の味覚を味わえた方もかなりいらっしゃるのでは？もし、今年は運悪く・・・という方がいらっしゃったら、来年に乞うご期待（^^）

市民ガイドさんの増員を計画中！

以前からお話をしていましたが、現在、旧村川別荘市民ガイドの増員を進めています。市民ガイドとなってくださる方を次の要領で募集しています。当初、5 月 16 日号の広報あびこに掲載予定でしたが、紙面の都合から 5 月 1 日号に掲載されました。5 月 31 日まで（当初より延長）受け付けています。その後、オリエンテーションを行い、みなさまの仲間入りということになります。

オリエンテーション後、しばらくの間はみなさんと 2 人体制で入っていくような形で考えています。

もし、ご友人やお知り合いなどで関心がおありの方がいらしたら、ぜひお声をおかけください。どうぞよろしく願いいたします。

5月の月例会が開催されました。

5 月の月例会が 5 月 1 日（火）に開催されました。以下に報告します。

●6 月のシフトについて

→確認されました。

●杉村楚人冠について

杉村楚人冠は、本名を杉村廣太郎といい、明治 5 年和歌山県生まれの国際的ジャーナリストです。朝日新聞社の重鎮として活躍し、大正 13 年からなくなられる昭和 20 年まで我孫子に住まれ、地域でも大変活躍されました。この杉村楚人冠について、3 月から 4 月に

かけてけやきプラザで行われた展示「楚人冠と漱石」の内容について、ご紹介をします。

- ・ 杉村楚人冠は様々な分野の人々と交遊を誇っていました。南方熊楠（植物学者）、夏目漱石（作家）、高浜虚子（俳人）、白瀬轟（探検家）、金子堅太郎（政治家）、石川啄木（歌人）そして村川堅固がいました。
- ・ 今回取り上げた夏目漱石は社会的信用が高い帝大教授を捨てて朝日新聞社に入社しましたが、常識的に考えられないことでした。朝日新聞社でも高給をもって漱石の気持ちに応えました。
- ・ 楚人冠と漱石は仕事上の間柄を超えて交友を温めていたことが杉村家に残された漱石の書簡に現れています。また名文家として知られる楚人冠のコラムを漱石が小説の中に取り入れたこともありました。
- ・ ところが明治末に楚人冠と漱石が不仲であるというゴシップ記事が載り、広く語られるようになります。漱石はこれを打ち消すよう友人に働きかけています。
- ・ その後も楚人冠と漱石は互いの作品・コラムを批評し合い、終生高めあう友人関係にありました。

→杉村楚人冠邸には漱石以外にも多くの文人と交流した記録があります。今後も企画展示を行いたいと思います m(_ _)m。

そのほか活発な意見交換がされました。

- ・ここで、ガイドをやってきての効果が出ている。しかし、この旧村川別荘の活用という視点で見た時に、ガイドを行うことが究極の目的ではないはず。次の展開を考えていきたい。今、そういう段階である。きっとガイドさんたちも、これまでガイドをしてきた中でこんな活用をしたらいいというような考えもいろいろお持ちだろうと思う。
- ・見学者の方から聞かれたのだが、このモザイクの床材は何の木だろうか？
- ・ベージュのほう、基調となっているほうはナラ材だと思う。
- ・今回、文化財として市の指定がなされる予定だと思うが、指定されても会議室として貸し出す

のはやめないのだろうか？→現段階ですべての貸し出しをやめるという考えはない。これまでこの旧村川別荘を使ってくれた、下支えをしてくれたという団体であったり、文化講座を開催しているということもあるし、いきなりやめるということではなく今後見学者への対応に重心を移していく中で検討をしていきたい。

- ・ こういったは良くないかもしれないが、志賀直哉邸跡と比べて、この旧村川別荘に感激して帰られる方が少なくない。ガイドのやりがいもある。
- ・ できれば、ガイドとして深みを出すためにも、文京区の本宅をうかがう機会をいただけたらうれしい。→了解
- ・ DC関係で午前中文化課で散策をした日、ほかにウォーキングがあったらしくすごい人出だった。できれば、そうした情報をわかる限り日誌にでも書いてガイドにも知らせてほしい。
- ・ 準100選に応募した時の資料をわいわいガイドにもほしい。また、県指定、市指定の文化財についての資料も。→了解
- ・ インターネットでこの別荘を引いてみた。商工会のページなどにも載っていなかったり、載っていても公開日に誤りがあったりする。なるべく正しい情報で宣伝をしていきたい。→個人のページなどはなかなか対応が難しいが、市や関連機関のページについては働きかけていく。
- ・ 以前に話が少し出たが、来月の月例会には、庭の樹木や草花について佐久間さんをお願いして、みなさんと勉強しましょうか？→賛成多数。

次回は・・・



4月月例会の様様

日にちがいつもと異なります。
平成 19年6月
4日(月) 午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

今回は、近藤さんにご尽力いただいて、植物の専門家でいらっしゃる佐久間先生をお迎えし、庭内の樹木や山野草などについて、みなさまとともに学ぼうと思います。ぜひ、ご出席ください(^ ^) /

旧村川別荘だより



平成 19年6月 13日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL：04-7185-1583（直通）
E-mail:bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘の植物について学びました！

6月の月例会は、4日に開かれました。佐久間俊行先生をお迎えし、旧村川別荘内の植物について、お話を伺い、学びの時間をもちました。当日にはうれしいびっくりで、村川夏子さんもおいでくださいました（^^）。



およそ1時間半あまりにわたって、熱心に御説明をしてくださり、また、ガイドさんたち

もさらに熱心に聞き入って、虫にさされながらもメモを取ったり質問をしたりしていました。

佐久間先生のお手製の詳細なる資料、近藤さんの力作の村川堅太郎先生のおっしゃったことなどをメモした資料、二つとも本当に良く作られていて、感謝の気持ちでいっぱいです。欠席された方にもお送りしていますので、今度、お当番になられたときにはそれを片手に庭を歩いて見てください。

少し内容をご披露いたします。

やはり一番最初は、新館を出たところにあるもみじから。「イロハモミジ」ですね。これは「タカオカエデ」ともいうそうです。カエデ科の木です。イロハというのは、葉の指のような部分を「イ・ロ・ハ・・・」と数えたからだそうです。普通は5～7に分かれているようです。プロペラ

（右の写真。旧村川別荘のではありません。）のように葉の間から出るものが果実（！）で、旧村川別荘のイロハモミジにもこの日上の



ほうにこのプロペラが見えました。

そして左へ階段を上っていくところに「クチナシ」。クチナシは、実が熟してもはじけない、口が開かないことから、クチナシという名がついたという風に言われているそうです。果実は、黄色い染料として古くから使われていましたが、今では安全な食品色素として栗きんとんや飴などに使われています。実がつくのは、一重のクチナシ（上の写真。旧村川別荘のではありません。）だそうで、八重だと実はならないそうです。果たして旧村川別荘のはどちらなのでしょう？もうすぐ花の季節なので答えが出ますね。

階段を上っていくと左手には「エノキ」があります。これは一里塚などに良く植えられ、街道筋の目印や木陰を作って旅人を休ませる、そんな樹木でもあります。我孫子市内では県内でもほとんど残っていない一里塚が2箇所があり、中峠と東我孫子駅近くの一里塚では、大きなエノキが今でも道行く人を見守っています。

それから大木と言えば「ケヤキ」。村川堅太郎先生も、「ケヤキの大木が5本あった」とおっしゃっておられます。敷地の比較的北側部分のほうに5本東西に並ぶような位置関係で西から東まで5本、ありました。本当に大木です。ちなみにすっかり忘れていましたが（深く反省・・・）、



我孫子市の木でもあります。

庭いっぱいには繁茂している「クマザサ」。これは熊が食べるようなものだからクマザサ。てっきりそう思っていましたら、そうではありませんでした。縁取りがしてあるように葉の縁が黄色く変色していることがわかります。これを隈取っている筈ということで、クマザサと言うんだそうです。若葉には隈取りがなく、葉が越冬すると縁が枯れてあのようなになるのだそうです。



それから「ヒノキ」と「サワラ」。外見が似ていて非常に区別しにくいのですが、見分けるコツを教えてくださいました。葉の？芽の？裏側を比較すると、白く筋がどちらもありますが、その筋の出方が異なっているのです。X（エックス）型の方がサワラ（Xだから触らないでと覚えると良いとか）、Y（ワイ）の方がヒノキです。

下のほうに下りますと、湧き水が流れ出ている場所があります。ここにはその環境柄、シダ類が多く生えています。リョウメンシダ、ミソシダ、アスカイノデ、ベニシダ、タチシノブ・・・かなり種類豊富だそうですので、このシダたちを可愛がって絶やさないようにしていきたいと考えています。

まだまだたくさんの方のことを解説いただいているのですが、今回は樹木ばかりの紹介になってしまいました。折に触れて続きを少しずつ紹介していきたいと思えます。謎があったらまたお寄せください。

ひとつ、ご注意いただきたいのは、はげの木です。かぶれることがあり、場合によってはひどい症状になるので、十分ご注意をと、佐久間先生も村川夏子さんからお話がありましたことを付け加えます。

市民ガイドさんの増員

以前からお話をしていましたが、現在、旧村川別荘の市民ガイド増員計画中です。5月いっぱい

で応募期間をいったん終わりにしたところですが、8名の応募がありました。6月下旬にオリエンテーションを行い、7月にはみなさまと一緒に研修としてガイドの現場を体験していただく予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

シフトについて

いつも皆様のご協力ありがとうございます。7月のシフト表が配られ、確認されました。今回、西村さん、織田さんの組み方が完璧だったようで、その場でいつもいくつか交換するのですが、ひとつもありませんでした！

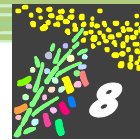
ご連絡です。

- ・ 6月21日（木）から6月26日（火）まで旧村川別荘母屋にて襖絵の展覧会が行われます。期間中は、主催側の方が常駐されます。午後6時まで開催しますが、ガイドは4時までいつもどおりをお願いいたします。詳しくは、チラシ、ポスターをご覧ください。
- ・ 虫除けスプレーと電気式の蚊除けを用意しました。夏の虫対策にお使いください。
- ・ 日曜日など2人体制で入っているコマで、お一人の方が変更になったときに相手の方にその旨伝えることが事務局側では徹底できていませんでした。ご迷惑をおかけして本当に申し訳ありません。必ず、2人が1人になったときには相手の方にもご連絡することいたします。また、ガイドさんのご都合により変更やお休みで1人になる場合には、そのガイドさんからご連絡をお願いすることもあるかと思いますが、ご協力をお願いできればと考えております。
- ・ 湧き水の調査をしたいという市民の方がおり、毎月第4日曜日に訪れることとなりました。郡司さんという若い男性です。

次回は・・・

平成19年7月1日（日）午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。このときには、旧村川別荘の誕生と題して、土地取得の経過やその詳細についてご紹介したいと思います。ぜひ、ご出席ください（＾＾）/

旧村川別荘だより



平成 19 年 7 月 4 日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化課
 歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL：04-7185-1583（直通）
 E-mail:bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘が市指定文化財となりました！！

平成 19 年 5 月 30 日我孫子市教育委員会告示第 3 号をもって旧村川別荘が我孫子市指定文化財第 9 号（史跡）として指定されました。

文化財審議会に指定の諮問の際に提出された調書から、旧村川別荘の特徴を見てみると、

「母屋は和室 3 間からなる主体部には、我孫子宿本陣の離れとして使用されていた当時の材料が残っています。便所や風呂、洗面所がここに移築される以前から取り付けられていたかは疑問ですが、少なくともここに移築された時点ではあったようです。屋根裏には茅葺当時の和小屋が残っています。母屋は移築時にかなり改造を受けていますが、我孫子市に残る江戸時代の貴重な遺構といえます。



母屋の建ったころ

新館は多くのユニークな特徴がたくさんあります。屋根は入母屋造銅板葺で、垂木に反りをつけ勾配を強くした独特の形状の扇垂木、コンクリートの基礎、建物四隅の丸柱、寄木張りの床、格天井、矩折れの出窓、など。玄関は堅太郎氏により改修されていますが、建物全般に改造は少なく、昭和初期の洋風形式を残しています。ともに規模は小さいですが、母屋と新館が和洋一対の形で現存する数少ない別荘例の一つです。また、別荘内の自然環境は、特に珍しいものや貴重な動植物は見られないものの、この場所は斜面林の連続した

緑の場所として景観としても重要です。ケヤキやクヌギ、シラカシなど自生している高木が生えているほか、10本以上のモミジなど植栽した木がみられ庭園としての価値を高めています。かつてどこでも見られた湧水が残り、建物だけではなく、緑豊かな自然を生かした庭園と湧水などを組み合わせることにより文化財として指定する価値があります。」

歴史的建造物と自然景観が一体になった稀有な別荘空間…これからも旧村川別荘を誇りにしていきたいと思います。

四宮義俊日本画展、好評のうちに終了！

四宮義俊さんは東京藝術大学大学院日本画科博士課程に在学中です。銀座など各地の画廊で個展を開くほか、数多くのコンテストで入選した経歴の持ち主です。今回、旧村川別荘を展示会場に選んだ理由をうかがってみると、「芸大の日本画科でも、伝統的な日本家屋に襖絵を飾った経験がない学生が多いんです。画廊ではまるで額縁に入れ込んだ西洋画のように飾るばかりなので…。建物の中に実際に飾ってみると、梁や柱、壁、畳などと自然に調和して、自分の作品であっても、また違った雰囲気なるからいいですね…。こういった展示をしたいと思っている画家や学生も多いのですが、制約が厳しくて展示ができないところが多いんです。こちらは庭や樹木の雰囲気、そして沼からの風もあって大変よいところですね。」とのことでした。



四宮さんの研究室の先生、学生、友人なども数多く訪れ、ここで創作発表に関わりたいという声も聞かれました。

「古き皮袋に新しき酒」、文化財とって構えるのではなく、いにしへの営みを大切にしながら、新しい文化発信の基地にするというのも一つの考え方だと思います。みなさんの活用アイディアを求めます！

旧村川別荘の誕生について

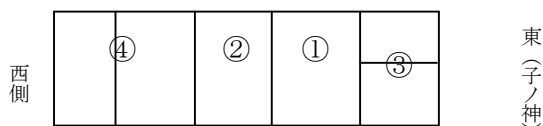
今回のテーマは、旧村川別荘誕生の頃の土地取得の経過について、ご紹介します。実は、以前のパンフレットや『広報あびこ』、そのほかの資料で誤りも含めて記述が複数あり、混乱を招いてしまいました。大変、申し訳ありません。市民の方からも、「いつが最初なのでしょうか」とご質問もいただきました。ここで、その点を明らかにしたいと思います。

一番のてがかりとなるものは、村川夏子さんの執筆による『我孫子市史近現代篇』の「村川別荘70余年」の記述となります。こちらでは、サブタイトルに「土地を求めた頃」として、土地売渡証書の日付から「大正6年12月に現在の別荘地の中央の地面、翌年5月にその東側、子の神社の入口近くの古屋と地面を買っている」としています。

上記のことを含め、登記はどうなっているかということ、柏の法務局で調べてきました。当時の土地台帳からその後の登記簿（現在では閉鎖登記簿）、現在のコンピューターによる登記事項などをすべて時系列で確認し、土地の所有権移転の経過と面積、そのほかの事項を確認しました。

すると以下ようになります。（地番）：登記日

- ①中央部分東寄り（1889番）：T6.12.10
- ②中央部分西寄り（1888番）：T6.12.27
- ③子ノ神側（1890番-1,-2）：T7.5.27
- ④西側部分（1886番、1887番）：T14.4.18
- ⑤下の三角地（1891番）：S15.12.3



徐々に土地を買い増しし、敷地を整えていった経緯がわかります。また、ガイドの中でお役立て

ください。

シフトについて

いつも皆様のご協力ありがとうございます。8月のシフト表が配られ、確認されました。

意見交換では・・・

- ・せっかく指定文化財になったので、そのPRをしましょう！
- ・市指定文化財になったことに合わせイベントを催したらいいと思います。市の定例記者会見なども利用し、マスコミなどにも情報を流して、情報をいきわたらせたいものです。
- ・灯籠は、補修をしたほうが良いと思います。ぼろぼろといろいろなものがはがれてきているようです。
- ・先日の襖絵展に村川夏子さんがいらっしゃいました。そのときに、私はガイドをしてしまったのですが（笑）、このリビングの壁は見覚えが無いようなことを言ってましたがどうなんでしょう。
- ・こちらの壁などの補修は、いつごろどのような形でなされたのでしょうか。元の状態はどのような形だったのでしょうか。
- ・平成8年3月に教育委員会で行っているのが入ったところとこのリビングとの壁の補修となっています。このときの資料を探せば、内容や元の状態もわかるのではないのでしょうか。または、専門家に調査をしてもらうなどすれば、壁のほんの一部を削って見るなど。
- ・ガイドのシフト表は、午前・午後ではなく時間で表示をしたほうがわかりよいです。→了解しました。
- ・美しい日本の歴史的風土100選のパンフレットをもらえないでしょうか。→問い合わせをしてみましたら、もう残部が余りなく、有料であれば（1冊200円程度）お譲りできますとのことでした。また、古都保存財団のホームページにはPDFによるデータがあったので、そこから白黒ですが印刷をしましたので、みなさまにそれをお送りします。

次回は・・・

平成19年8月1日（水）午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。ぜひ、ご出席ください（^^） /

旧村川別荘だより



平成 19年8月 10日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘文化財指定記念イベント開催 第1弾 指定文化財展



平成 19年 5月 30日、我孫子市寿 2丁目にある旧村川別荘が我孫子市指定文化財（第 9号）になりました。

また、今年 4月からの3ヶ月で旧村川別荘への来荘者が早くも5,000人（すごい！！このうちの2,000名は4月の駅からハイキングですが、それにしてもものこり3,000名は昨年度1年分の来訪者数です。）を突破しました。

これを記念して、8月22日（水）～9月30日（日）の間、市民の方々に広く我孫子市内の指定文化財を知っていただく企画展「指定文化財展」を旧村川別荘新館で開催します。我孫子市指定文化財、千葉県指定文化財についてご紹介するパネルと市所有の指定文化財である裁縫雛形や墨書土器などの実物やレプリカを展示します。旧村川別荘以外の文化財についてもさらに知っていただく良い機会になるかと思しますので、どうぞお楽しみに(^ ^)



第2弾 竹でコップと箸を作ろう！ (夏休み親子竹細工教室)

我孫子市指定文化財となった旧村川別荘の庭内に自生する竹を用いてコップと箸を作り、冷やしうどんを食べます。残り少ない夏休みのイベントとして、次のとおり親子ペアでの参加を呼びかけています。ガイドのみなさんも竹細工の見守りやうどん準備などスタッフとして、ご参加いた

けませんか？ご参加いただける方はご連絡ください。

日時 8月24日（金）
午前10時～午後1時
参加資格 子どもと保護者（事前に電話申し込み。お子さんの年齢は問いません）



持ち物 軍手、飲み物、帽子、タオル、虫除け
参加費 無料

申し込み先 文化課 Tel:04-7185-1583

竹灯籠の夕べ

夏の疲れを癒す初秋の夕涼みを楽しみませんか？ということで、企画いたしました。

「旧村川別荘」において「竹灯籠の夕べ」を開催します。旧村川別荘にはまだ電気が通じていなかった昭和初めに使用された灯籠が残されています。これを再生して火をともしすることで、陰翳に支えられた「いにしえの文化」を呼び起こします。また別荘内に自生する竹を利用した「竹灯籠」を飾ることで旧村川別荘の新たな魅力を創出します。



竹灯籠の製作については別荘でのシフト時にお手伝いいただけるように手配しておりますが、竹灯籠の設置や点火など当日お手伝いいただける方も探しています。可能な方はぜひご連絡ください。またスタッフとしてでなくても、ぜひ当日はご来訪いただき、夜の灯籠に照らされる旧村川別荘を楽しみにいらしてください。

日時 9月8日（土）午後6時～午後9時
（荒天の場合は9月9日（日）に順延）

市指定文化財について

我孫子市には 9 件の市指定文化財、4 件の千葉県指定文化財があります。

市指定文化財の内訳は古代 4（金塚古墳遺物・墨書土器 3）、中世 1（二十一仏板碑）、近世 2（陶製仁王像・薬師三尊）、近代 2（裁縫雛形・旧村川別荘）となっています。また県指定の内訳は古代 2（水神山古墳・日秀西遺跡）、近世 1（正泉寺血盆経）、天然記念物 1（東源寺榎の木）となっています。



市指定文化財になるには、まず文化財審議会（文化財の有識者会議）によって候補リストに掲載し、所有者同意を経てから、はじめて指定にかかわる作業（調査と事務）に入ります。作業に入ってからおよそ 1 年、文化財審議会や教育委員会での諮問や答申を経てようやく市指定になるのです。また市指定文化財のなかから将来的に県指定になる道も開けてくるのです。そういうわけで、もっと多くの史跡を指定化したいと思うのですが、一気にというわけにはいかないのです。今後も皆さんにお力をお借りしてより一層の指定化に向けて努力いたしますので、よろしく願いいたします。

シフトについて

いつも皆様のご協力ありがとうございます。9 月のシフト表が配られ、確認されました。

意見交換では・・・

- ・東京裁縫女学校（裁縫雛形の製作の場となった学校）とは今の何大学でしょうか？
→東京家政大学のことです。
- ・イベントを行ったり、活用の工夫を行うことによってまた来訪を期待できると思います。これらのイベント本当にガイドとしても楽しみです。
- ガイドのみなさんのアイデアをぜひ今後もお寄せください。
- ・広報には掲載されるんですね。自治会なんかへも PR をうつと良いかもしれません。自治会によっては自治会報に掲載してくれる

ということも可能性があります。

- 子ノ神大黒天さんにご挨拶に行ってきました。また、子ノ神台自治会さんなど周辺の数自治会にはイベント開催を知っていただく目的と PR のためにお知らせをしています。
- ・ここは文化財ではありますが、この間は少し視点を変えて石段を登山の訓練に見立てて登り下りしました。結構、健康にもよいスポットなんているようにもできるかもしれません。
- ・月曜日でも祝日が多くなりました。開館できたほうが良いと思います。
- 来年度から開館できるように準備しています。
- ・たとえば飲み物のサービスもできたらいいのかなとも思います。
- ・今の時代、歩く人はみんなペットボトルを持っていたりしますから、どうでしょう？そこまで用意しなくてもいいような気もします。
- ・下の三角地はそういう休憩スポットになっていくわけですね。だとすればそこに今の提案のあった飲み物を入手できる機能をつけてもいいかもしれません。
- ・人を置いてと言うのはなかなか大変なので自動販売機などとなると、ゴミの問題は出てくるかも・・・。
- ・お花をいつも生けてくださる中野さんに感謝です。部屋が明るくなります。いつか機会を設けて、お話をするような囲む会ができればよいと思います。
- 月例会へのご参加もお声掛けしていきます。
- ・いまは建物メインですが、いずれ庭も見たいだけのような場所にしていきたいものですね。野草園もそのひとつとすることで取り組みたいです。
- 庭の整備をおいおい進めていきたいと考えています。その中で、ライトの立っている新館の前の丸い野草園らしき場所を野草の花が楽しめるようなものにするのも方法のひとつだと考えています。

次回は・・・

平成 19 年 9 月 1 日（土）午前 9 時半から旧村川別荘にて月例会を行います。今回は**母屋**で行います。ご出席ください（^^） /

旧村川別荘だより



平成19年9月14日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL：04-7185-1583（直通）
E-mail:bunka@city.abiko.chiba.jp

指定文化財記念イベント「竹でコップと箸を作ろう！」が開催されました。

竹細工教室が、平成19年8月24日（金）10時から12時半まで、盛大に（？）開催されました。全部で69人、26組の参加があり、大盛況でした。ガイドの荒井さん、染野さん、山口さん、瀬戸さん、藤元さんのご参加のもと、子供たちの



笑顔エネルギーに汗を流してがんばりました！写真で様子を御覧下さい。まず最初は、前日から職業体験にきてくれた湖北中の生徒さん、明日の子供たちのための準備をしています。

慣れないのこぎりで、タイヘン・・・。

さて、当日です。朝は曇りがちでなかなかちょうどよいお天気かも、とスタート！続々と親子連れがこの旧村川別荘に集まってきます。待っているこちらもなんだかどきどきわくわく。



切り出した竹を適当なおおきさに切ってひとつずつ持ち、自分なりに加工をしていきます。結構力があるかも。むむむ・・・！結局かなり暑

いよいよ始めます。まず竹を切り出すところから。普段あまりみたことのない切り出しの情景に子供たちも注目しています。



くなり、陽光のもとでがんばること1時間あまり。うまくできたかな～？凝っているのだと、竹の皮を削ったところと削らないところとで模様を作ったり、名前を彫って～と山口さんに群がったり・・・、それぞれの個性的なマイコップができました。



やっとおうどんです。おいしくいただきました！予定よりも申し込みを多く受け入れたので、ちょっと量が不足気味でした。

暑い中、みなさんありがとうございますございました。来年はなにを作ろうか今から楽しみに考えています（^^）



竹灯籠の夕べ 大盛況！！

竹灯籠の夕べが、平成19年9月8日（土）18時から21時まで開催されました。当日は、実に533人のお客様が旧村川別荘に訪れてくださり、暗闇の中にもとるほのかな光で、往時の旧村川別荘の情景を味わっていただけたかと思えます。

ガイドの荒井さん、石川さん、稲田さん、梅津さん、岡田さん、織田さん、川端さん、瀬戸さん、染野さん、西村さん、山田さん、矢野さん、吉澤さんに助けをいただいて、灯籠作り（なんと500個近く！）から当日の準備、運営まで、本当に無事に行うことができました。



9月4日、今日は灯籠作りの日。左は、作業前の元気な時の集合写真。やる気まんまんです！

ぎーこぎーことと竹を切ります。女性群も大活躍！



男性陣は、職人氣質で、ハイレベルな灯籠が・・・。

そして、たくさんの竹灯籠が生まれました。

当日は、まずは中庭の大灯籠に明かりを灯すところからスタートです。村川夏子さんがいらして

くださって、点灯のセレモニーを行いました。古きよき時代の象徴ともいえる大灯籠に、新しく今、灯を入れることができ、感無量です。そして、この一夜のみの灯籠の夕べでしたが、3時間の間になんと533人の客様が訪れてくださいました。多くの方に、往時の別荘の情景を楽しんでいただ



けたのではないかと思います。ガイドのみなさまも本当にありがとうございました。



意見交換では・・・

次のような意見交換がなされました。竹灯籠前なので、実施の仕方に関するご意見もたくさん出されました。

- ・竹細工教室は、荒井さん、染野さん、山口さん、瀬戸さん、藤元さんのご協力を得て、無事に行われました。69名の参加でとても盛況でした！
- ・新聞の切抜きを持ってきましたので、みなさん御覧下さい(千葉日報の竹細工の様子を報道した記事。10月月例会のお知らせに同封しました)。
- ・来年度以降やるのなら、土日に設定をするとお父さんの参加が可能となって、もう少し力仕事も一緒にやってもらえると嬉しいです。ずっと使えるような竹細工として作るなら、時間が少し足りないと思います。その日限りのイベント的に切り出した竹でそうめんを食べるとかに絞ってもいいと思いました。
- ・来年は流しそうめんなんかどうだろうか。
- ・竹灯籠への準備へのご協力をお願いします。
- ・飲食、お酒の飲み食いをお客が望んだ場合に、どう対応するかをあらかじめ考えておいたほうが良いと思います。
- ・お酒は禁止でしょうね。飲み物くらいは持ち込まれても特に積極的に注意しなくてもいいと思いますが・・・。
- ・庭内が夜ということで暗いので、やはり怪我は要注意です。
- ・かなりのお客がくると思います。関心が高いですよ。
- ・このちらしを持って近所や知り合いに宣伝して回ったのです。そのときに言われたのですが、灯籠を灯して、何かやらないの？どなたかのお話とかあるの？と言われたのですが・・・。
- ・まだ決定ではないですが、コカリナの演奏を小さな音量でもしてもらおうかと思っています。

新しい仲間が増えました！

9月から、新しい仲間が増えました！石川さん、川端さん、鯉刈さん、酒井さん、佐藤さん、矢野さんの頼もしい6人です。どうぞよろしくお願いたします。

次回は・・・

平成19年10月1日(月)午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。ご出席ください(^ ^) /

市指定文化財、展示品を入れ替えました。

指定文化財展も展示品を11日入れ替えました。裁縫雛形を2点しまい、石枕(本物)と墨書土器(レプリカ)を展示しています。これまで



の夏の来荘者数が月に20名(春や秋の多い時にもせいぜい100名弱)というところを、今年度の8月は、竹細工を除いても200名を超えました！

シフトについて

いつも皆様のご協力ありがとうございます。10月のシフト表が配られ確認されました。9月7日の山口さんと9月25日の山田さんが交換、10月31日の山田さんは青木さんに変更となりました。

旧村川別荘だより



平成20年1月24日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化課
歴史文化財担当：岡村、@@辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL：04-7185-1583（直通）
E-mail:bunka@city.abiko.chiba.jp

新しい年が明けました！

新しい年が明けました。本年もどうぞみなさま、よろしく願いいたします。
今年度の幕開けは1月9日の月例会でした。もちろん、1月4日から旧村川別荘は開館し、ガイドさんのうちのとても運の良い方(!!)はすでに年初めの縁起の良いお勤めをしてくださっていますが(^ ^)・・・さて、まずは1月9日の月例会の報告をさせていただきます。

シフトについて

2月のシフト表が配られ確認されました。みなさまのご協力により、特に当日は変更もなく確認されました。なにかありましたらご連絡ください。
今年はどういう年ということですが、1日分多いですが、よろしく願いいたします。おそらく、2月には、北側の古い物置の解体、母屋・新館の建物の修繕、塀などの修繕、園路の修理など工事関係が継続して入ってきます。何かとご迷惑をおかけしますが、ご了承ください。

野田市に行ってきました。

野田市に行ってきました。ご報告が遅くなり、本当に申し訳ありませんm(_ _)m12月7日(金)に総勢20人で(今回、初参加の市教育委員会文化課で市史編纂の仕事をしている若い女性である田中も参加しました。以後よろしくお見知りおきください！これから月例会に参加をしたりする機会が増えてくると思います。研究分野は近世の歌舞伎です。)野田の醤油醸造の歴史を肌で感じてきました。

まずはキッコマン野田工場の「もの知りしよ



ガイド「むらさきの里 野田ガイドの会」染谷さんと古橋さん、野田市教

うゆ館」船橋さんのご案内でしようゆのできるまでを見学。手作りのノウハウを最新テクノロジーに置き換えたしようゆ工場に一同感心。

次に市民ボランティア



育委員会の星野さんのご案内で、昭和初期に造られた興風会館（ロマネスク様式と呼

ばれる。かつての明治大学本館と同じ作者による)に感動し、キッコマン創業一族である茂



木家の住宅が利用された市民会館の贅を尽くした建物に圧倒されました。

限られた時間だったため、もっと深く

ガイドさんの話をうかがいたいという声もありました。

二日間の研修、大変お疲れ様でした。



もみじ降る錦の別荘で、千葉県講師派遣の研修が行われました。後で聞いたところ、応募団体多数のところ県下で2団体だけ選ば

れて研修を受けることができた、ということで、遅ればせながら責任(?)の重大さを認識したりしたところです。12月4日と18日の二日間、参加者のみなさまにおかれましては本当に一生懸命参ってくださいました。実施方法や内容などいろいろ反省点もあったのですが、みなさまがたのご協力があって無事終了できました。感謝です。



特にガイドとしての心構えとして、そこにあるものを伝えるという第一段階からさらに



進んで、その背景にある先人の知恵や時代背景、考え方や思想など、何を伝えたいかを常に意識していくことがガイドとしての醍醐



味であり、きもであるということが、実感された研修であったと思います。研修で得たことが即効性ではなくても何かの折りによみがえったり、役立ったりすることが出てくるのではないのでしょうか。事務局にとっても良い刺激となり、資料の充実や、展示の工夫など角度を変えた視点で、かつ、新しい気持ちで取り組んでいきます。ガイドのみなさんに使いやすい資料も、ご意見をいただきつつ改良していきたいと思ひます。

来荘連絡票について

グループなど、あらかじめ旧村川別荘の見学の相談や予約のあった団体などについては、月例会資料として配布した「来荘連絡票」をファックスで旧村川別荘へお送りします。ファックスを見つ

けた人は、日誌に挟むなどして担当の人がわかるようにしてください。担当日には、連絡票が来ていないかを確認してください。12月にはすでに1件あり、鯉淵さんがガイドを務めてくださいました。お客様にも大変好評でした(^ ^)

意見交換では・・・

- ・別荘に関心を持つ可能性がある人は、市内の人はもう1回は来ていると思います。これからはどうリピーターを呼び込むかというのが、見学者増のためのポイントだと思います。
- ・何度も来てもらえるようにするには、くつろぎの場にしていくというのが一つだと思います。湯茶を提供したいというのが、自分の願ひです。
- ・ハケの道から来る人が増えて、今ではそちらのほうが多いです。入り口を、上のような門とまではいかないまでも、多少別荘らしくできないものでしょうか・・・?→手賀沼文化拠点整備計画の中の再整備として、門も含めて和風のそれらしいものにしていきたいと思ひています。
- ・矢野さんの写真集、矢野さん提供の広報の写し(歴史や史跡に関わるもの)、荒井さん提供の古い広報あびこ、山口さん提供の名刺フォルダが整備されていますので、ご活用ください。
- ・吉澤さんより、市民活動支援課主催の市民活動のイベントにおいて、この旧村川別荘でのボランティアガイドの活動を伝えたいので、記事のアイデアや写真画像などご意見・ご提供・御協力をお願いしたいとの話がありました。
- ・ガイドの研修の一環で、もし今度市外に行くことがあれば、調布の武者小路記念館はどうでしょうか。
- ・最後に、新館前で新年の集合写真を矢野さんが撮影してくださいました。

新しい仲間が増えました！

12月から、新しい仲間が増えました！宮脇さんです。よろしくお願ひいたします。

次回は・・・

平成20年2月1日(水)午前9時半から旧村川別荘母屋にて月例会を行います。

編集のひとりごと

編集Kの怠慢につき、かなりのブランクがあいてしまったことを深くお詫びいたします。気持ちを新たに、毎月1号の発行をしていきたいと心に誓いましたので、どうぞみなさま温かい目で見守ってやってください。

旧村川別荘だより



平成 20 年 2 月 15 日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会文化課
 担当：岡村、辻、工藤
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL：04-7185-1583（直通）
 E-mail:bunka@city.abiko.chiba.jp

2月の月例会が開催されました。

2月1日（金）に2月の月例会が開催されました。シフトの確認と旧村川別荘周辺の遺跡について、そして意見交換がなされました。以下に報告します。

- 3月のシフトについて
シフト表の確認を行いました。
→確認されました。
- 4月のシフト調整調査票について
2月24日（日）までにいつものポストへご投函ください。ファックスやメールでも結構です。

旧村川別荘周辺の遺跡について

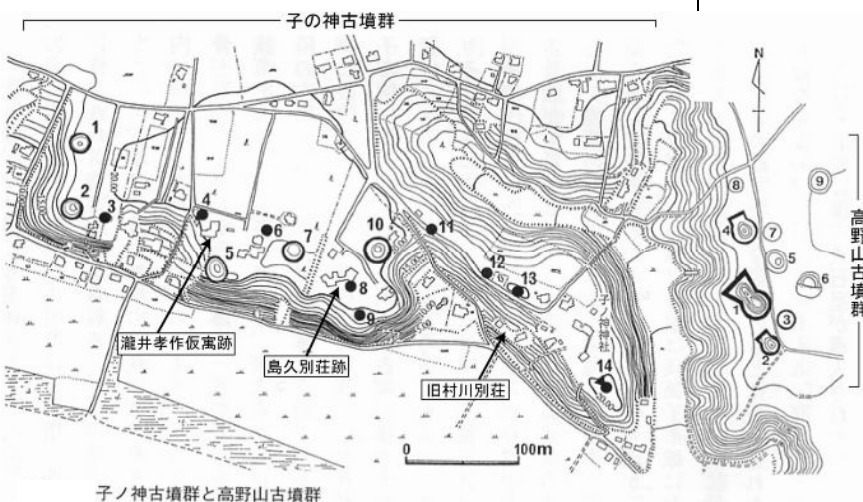
2月1日の月例会では、「旧村川別荘周辺の遺跡について」として、学びの時間をもちました。以下に概略をご紹介します。

縄文時代～今から 12,000 年前～2,500 年前。
 稲作が日本列島で定着していない狩猟や採集の時代です。我孫子駅南東の大光寺付近にはかつて「大光寺貝塚」があり（現在では宅地化によって失われています）明治時代から東京帝国大学人類学教室が土器の採集を行っていました。村川正二（堅太郎の弟）が大正 11（1922）年 4 月 23 日の日記で「汽車からおりてにいさんとねえさん

と僕だけかひづかと言ふ所に行つて千年いじょうも前のやきものなどもひろつた」と記しているのは、この貝塚であると考えられます。

弥生時代～今から 2,500 年前～1,800 年前（3 世紀）。稲作が開始し、邪馬台国のような小さなクニが作られます。我孫子市では市役所の駐車場付近でわずかな量の土器（手のひらいっぱいくらい）が出るほかは発掘されていません。ムラがでなかつたのか、まだ発掘されていないだけなのか「なぞの時代」です。

古墳時代～3 世紀末～7 世紀末。大和を中心としたクニづくりが進められ、前方後円墳を介して各地の王権が大和に服属する時代です。この考え方の基本は我孫子市白山に居住した西嶋定生先生（東大名誉教授、東洋史学者。村川堅太郎の影響を強く受けた）が中国王朝の支配体制をヒントに考えたものです。我孫子では4世紀末の水神山古墳（この時期の千葉県北西部地区最大の前方後円墳）が作られて以降、旧村川別荘付近では6世紀中頃の子の神古墳群、それよりやや遅れる高野山古墳群などがあります。子の神古墳群は 13 基の円墳と 1 基の前方後円墳からなり、埴輪が多く出土しています。4・5号墳は瀧井孝作仮寓跡、8・9号墳は島久別荘跡、14号墳は子の神大黒天にあります。権力者は見晴らしの良い場所を自らの権力を示す舞台装置（＝古墳）の立地として選んだようですが、そこは千数百年を経て貴顕諸氏のリゾートとなったようです。景色の良い場所はいつの時代も住みよい場所なんですね。



子ノ神古墳群と高野山古墳群

杉村楚人冠展が開催されました。

平成20年2月1日から杉村楚人冠展が始まりました。今回は、アビスタ2階の展示ケース3つで、楚人冠と湖畔吟社というテーマで、杉村楚人冠が湖畔吟社を立ち上げた時のこと、戦後の湖畔吟社、現在も活動を継続している湖畔吟社について、残された資料や貴重な品々をもとに、その歩みと地域にもたらした効果について描いています。推定でなくなったパンフレットの数から、約700名近い方にご来場いただきました。3月1日の月例会では、この展示の解説をテーマにしたいと考えています。お楽しみに！



↑ 湖畔吟社の落款



対談“杉村楚人冠を語る”が開かれました。



平成20年2月9日(土)には、“杉村楚人冠を語る”と題して丹沢栄一先生と倉持布くさんとの対談が行われました。この日は、雪か雨かという天候も悪い中でしたが、アビスタ2階のミニホールには立ち見の人があふれるほどの人出でした。記帳をしてくださった方が120名、配布した資料は約150部でした。

語り手である倉持布くさんは、現在92歳。楚人冠先生を直接ご存知の方です。ご実家が杉村邸のご近所で製茶業を営んでいらしゃったこと、楚人冠先生の妻である杉村らんさんにお茶を習っていたことなどから、楚人冠先生の日常のご様子

を聞いていただきました。楚人冠先生の日常のご様子



や、ご家族との交流、地域とのかかわりなど“我孫子に暮らした楚人冠”を、ときにはユーモアを交えて会場の笑いを誘いながら、いきいきと語っていただきました。

白馬城と命名された杉村邸の佇まいからお話は始まりました。邸内には、楚人冠先生の趣味が感じられる樹木、植物が配置され、よく知られていることですが、中でも椿がお好きであったことが話されました。倉持さんの記憶では、“白玉”と先生が名づけた大きな白い椿が特に印象的であったそうです。

また、楚人冠先生の大変な母親思いであったことにも触れられました。2歳にしてお父様をなくされ、母一人子一人で成長されただけに、お母様への朝夕のご挨拶をはじめ心を尽くされていたエピソードが披露されました。

出勤のときの楚人冠先生をお見かけしたとのお話もありました。列車通勤で我孫子駅へ向かう途中の356沿いで、横断しようとなさった楚人冠先生、「ずっと待っているのです。なんだろうなと思ったら、じゃんぼん(葬列)が通ったのです。先生は渡ろうと思えば、じゃんぼんがくるよりも前に渡ってしまうことができたのにもかかわらず、じっと待っていて、通り過ぎてからもじいっと手を合わせておられました。」

こんなエピソードも……。八坂様のお祭りをするにあたって、寄付を求めたら断られたそうです。ところが、道路を作る必要があって寄付を求めたら、積極的に協力をしてくださったとのこと。楚人冠先生の考え方が垣間見えるお話だと思いました。

このときの対談の様子を録音しています。このあと筆耕する予定ですが、お聞きになりたい方には貸し出しますので、お申し出ください。



次回は・・・

平成20年3月1日(土)午前9時半から旧村川別荘母屋にて月例会を行います。どうぞ御出席ください(^ ^)。



平成 20 年 3 月 10 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会文化課
担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL：04-7185-1583（直通）
E-mail:bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

3月の月例会が開催されました。

3月1日（土）に3月の月例会が開催されました。シフトの確認と杉村楚人冠展について、連絡・意見交換がなされました。以下に報告します。

●4月のシフトについて

いくつかの変更を経て了承されました。OBとなられた竹井さんにも御協力いただき、みなさまのおかげで無事調整されました（^^）

●5月のシフト調整調査票について

3月26日（水）までにいつものポストへご投函ください。

杉村楚人冠展について

平成 20 年 2 月 1 日（金）から 15 日（金）まで開催された杉村楚人冠展。月例会では展示の解説を交えて杉村楚人冠の俳句とのかかわりや地元の方々との文化的な交流についてお話ししました。一部をご紹介します。

パンフレットは2種類を用意しました。6ページのもので楚人冠や俳句に関する簡易パンフレットで、中学生や高校生などが学習の資料にも使えるような基礎的な資料となります。40ページあまりからなる厚いほうは展示の詳細なパンフレットで、展示品や展示資料、パネルなどが掲載されており、各々に解説文が付いています。

展示は3つのケースで行われました。1つめは、楚人冠と我孫子のまちとの関わり、沼を守った手賀沼保勝会の運動、俳句との出会い、2つめは、湖畔吟社を結成され、活発に活動を繰り広げた戦前までの様子、3つめは、楚人冠亡き後の戦後に新しい湖畔吟社として生まれ変わり活動が継承されて現在に至るまでの状況を描き出しています。紙面に限りがあるので、ピックアップで。

Ⅰ・・・国の手賀沼干拓計画が新聞にも報道され、美しい景

観が損なわれるという危機感が周辺に別荘を持つ人々に。村川堅固が嘉納治五郎などと運動を開始。農林大臣山本悌次郎あての陳情書が提出されます。保勝会の趣意書には、手賀沼の風光絶佳なる点、東京から近い点、雄大な水辺であることがとうとうと述べられています。最後のほうに「人はパンのみにて生きる者に非ず」というキリスト教の表現が出てくるのも興味深く、この文章を書いた人物の一面が覗いているのかなぁなどと思ったりします。

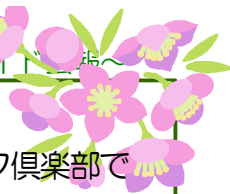
Ⅱ・・・湖畔吟社のメンバーは続々と増えていきます。中心となられた小熊甚左さんほか



みなさんととても個性的な方ばかり。飯沢喜楽、自転車屋さん。小倉半谷洞さんはペンキ屋さんでばくち打ちの親分さん！ 駅員さんの木村さんなどなど。俳号もよくよくみてみると楽しいです。例えば、木村湖邑、湖のほとりのむら。馬島青翳・・・歯医者さんで「医」の部首を取り入れています。青々と茂る沼部の斜面林をもっているのでしょうか。中根茶楽さん、お茶っ葉屋さん。風沢魚遊さんはお魚屋さん？ 飯田履白は履物屋さん。鈴木青果さんはきっと八百屋さんですね。

Ⅲ・・・楚人冠が亡くなって、湖畔吟社もその屋台骨をなくしたように元気をなくしますが、しかし。楚人冠が撒いた種は、時の流れを経て新しい芽を吹き返すのです。新たに深川正一郎の指導を得て、元からのメンバーの小熊甚左、飯沢帰洛、新保旦子らにまた新しいかかわって、再興された湖畔吟社。今に至るまで連綿と活動が続けられています。時は移っても、そのむかし楚人冠が夢見てめざした文化の香るまち、市民による文化的なまちづくりは、今の我孫子のそこここに息づいています。





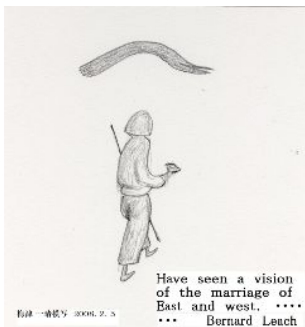
そのほか連絡や意見交換など

●来荘者アンケートについて

現在の台帳記入式ではなく、単票式のほうがプライバシーも守れるしよいのではないかとのご意見によりシートを作成して提案しました。

- ・団体用のものを別に作ったほうがよいのではないのでしょうか？
 - ・住所は、書く側の負担をなるべくなくすために、来訪の多いと予想される市町村名を3つか4つ挙げ丸を付けられるようにしたらどうでしょう。
 - ・目的についても、いくつか選択肢を列挙したほうがよいと思います。
- なるべくご意見を反映したものを作って4月から活用したい考えです。どうぞ御協力を。

↓梅津さんによる巡礼像のスケッチ



●旅行案内

バーナード・リーチゆかりの地へということで、旅行案内のちらしをお配りしました。4月12日(土)～4月19日(土)まで、リーチの生まれ故郷イギリスへの旅、旅行

代金は360,000円です(!)。リーチが我孫子を離れ帰国してから窯を築いたセント・アイヴスでは、芸術家のコロニーのような様相を呈していたようですが、その後少しずつ時代が流れて廃れ、リーチの窯も荒廃が進みつつあったようです。この状況を憂った人々が基金を募り窯の再生を試みました。今回の旅行は、その完成記念ということになります。この再生の活動はイギリスだけでなく、日本でも日本民藝館が窓口となり展開されました。その結果、多くの募金が集まり、工房の再建が成ったということです。



←雪が降りました。
染野さん撮影

●観桜会のお知らせ

梅津さん、西村さんから我孫子ゴルフ倶楽部での観桜会、3月31日とのことです。お花見日になるといいですね。在りし日の楚人冠もまた、クラブを片手に同じ桜を眺めたことでしょう。

●マイタウンガイドに載りました！

本日付けの読売新聞系の折込タウン誌『マイタウンガイド』に、我孫子の記事を載せてもらいました。どうぞご覧ください。我孫子の今と昔というテーマで、主にマンションなどの新住民にその地域のよさを知ってもらうというねらいで近隣市町村を取り上げているシリーズですが、今回我孫子にも依頼があってプロフェッサーT が原稿を書きました。旧村川別荘にも置きますので、ご活用ください。



●月曜日開館します！

前回の月例会でもお話ししましたとおり、4月から月曜日も開館したいと考えています。ガイドさんからも同様のご意見を頂きましたが、祭日などが月曜日振り替えとなったり、月曜日そのものに祭日が設定される例が増えて、休日の月曜日に別荘に来てみたら開いていなかったとか、団体さんが見えられて急遽開けに行ったりということなどもあり、新年度から月曜日を開館します。こま数が増えて、ガイドさんたちにはご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしく願いいたします。また、ガイドさん増員計画を掛けて生きたいと考えはいます。みなさまも、もし身近な方などでいらしたらお声掛けください(^ ^) 4月からまた新メンバーも増える予定です。

次回は・・・

平成20年4月1日(火) 午前9時半から
旧村川別荘新館にて月例会を行います。
どうぞ御出席ください(^ ^)。